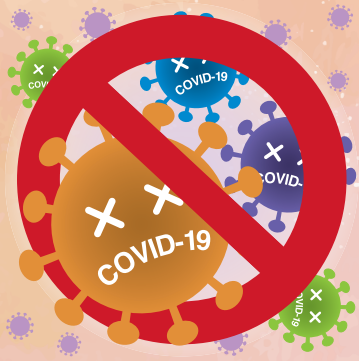
亀田ニュース

2026
No.1093
11月1日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929 ●TEL04(7092)2211㈹ ●発行責任者 亀田隆明 ●作成 広報企画室 ●毎月1日・15日発行



この秋冬
新型コロナワクチン接種を推奨します



感染症内科
部長
細川 直登

新型コロナウイルス感染症は毎年冬と夏の2回の流行を繰り返しており、2025年でもインフルエンザを上回る2万人を超える死亡者数を数え、現在でも予防が重要な感染症の一つです。65歳以上の高齢者が死亡者の98%を占めており、高齢者の命にかかわる病気です。

高齢者以外でも心臓や腎臓、肺や肝臓などに基礎疾患を持つ方、糖尿病やがんを持つ患者さまなどは感染した際の重症化リスクが高く、ワクチンで感染や重症化を防ぐことが重要です。新型コロナワクチンは発症や重症化を予防できることが証明されています。

65歳以上の方は国の定める定期予防接種として、生後6ヶ月から64歳までの方は任意接種として新型コロナワクチンの接種ができます。冬の流行前に予防接種をうけておくと、感染予防と感染した際の重症化予防の2つの効果が期待されます。この冬の流行に対しては流行しているウイルスのタイプに合わせた新しいワクチンが使用されます。インフルエンザワクチンに加えて、新型コロナワクチンの接種もぜひご検討ください。

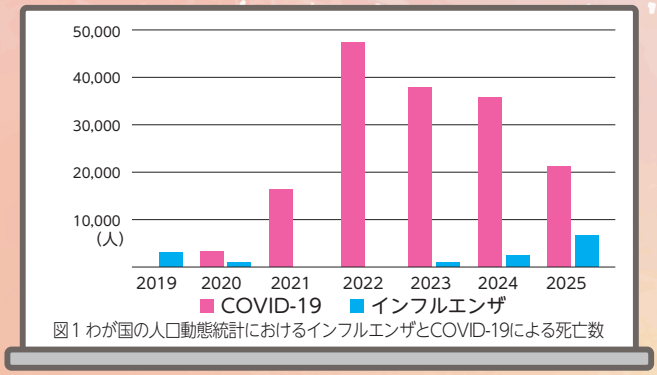


図1 わが国の人口動態統計におけるインフルエンザとCOVID-19による死亡数

65歳以上の方などを対象に
新型コロナワクチンの
定期接種を実施しています。
厚生労働省



参考文献　日本感染症学会　ワクチン委員会・COVID-19 ワクチンタスクフォース　COVID-19 ワクチンに関する提言
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/gakkai_covid19_260901.pdf

世界糖尿病デー

11月14日の「世界糖尿病デー」を含む1週間は、「全国糖尿病週間」です。

糖尿病の予防・進行防止には、早めの対策が大切です。イベントでは、様々な職種の医療スタッフが治療やケア、生活や運動についてわかりやすく紹介します。**無料で血糖測定も実施します。**ぜひお立ち寄りください。

イベント情報

- 日時　11/17(火)10:00～12:00
- 場所　亀田クリニック1階
- 内容　血糖測定と講義

ブルーサークルランチ



Kタワー13階レストラン「亀楽亭」では、今年も管理栄養士監修の「ブルーサークルランチ」を1日20食限定でご用意いたします。栄養バランスのとれたヘルシーメニューを、ぜひお試しください。

提供期間　11月11日(水)～11月17日(火)
11月17日(火) ラストオーダー14:00
11月15日(日)は提供無し

1,650円(税込)

bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエム『it!(イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。11月は亀田総合病院 看護部 堀江秀一副主任が、院内迅速対応システム(RRS)をテーマに、患者さまの状態悪化を早期に察知する方法や、急変対応チーム(MET)と院内を巡回して支援するチーム(CCOT)の活動など、患者さまの安全を守るための取り組みをわかりやすく紹介します。

亀田クリニック
11月21日(第3土曜日)休診です



その頭痛、見のがさないで！

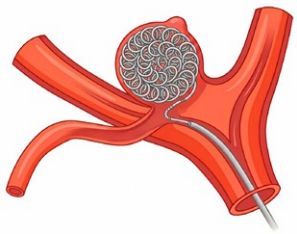
脳血管内治療科（脳神経センター）部長　門岡慶介

第8話　切らずに治す脳動脈瘤

前回は、脳動脈瘤が見つかった時に、すぐ治療が必要とは限らず、大きさや形、場所などを見ながら方針を考える、というお話をしました。今回は、治療を行う場合の選択肢の一つである「脳血管内治療」についてです。

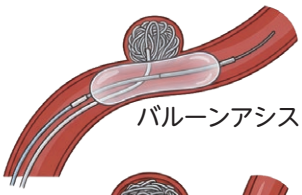
脳血管内治療は、頭を開けず(大きく皮膚や骨を切らず)に、血管の中から治療する方法です。多くの場合、足の付け根や手首の血管からカテーテルを入れ、血管の中を通って脳の血管まで進めます。

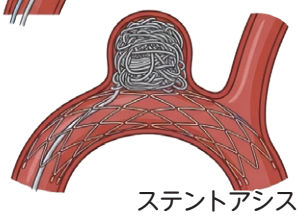
コイル塞栓術

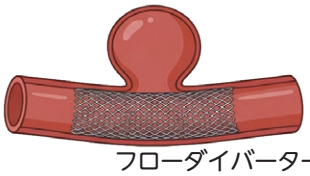


代表的な方法が「コイル塞栓術」です。動脈瘤の中に非常に柔らかい金属の糸のような「コイル」を少しずつ詰めて、こぶの中に血液が入らないようにする治療です。動脈瘤の中で血液が固まり、破裂しにくい状態にすることを目指します。外からこぶを潰すのではなく、内側から蓋をするような治療と考えると分かりやすいかもしれません。

動脈瘤の入り口が広い場合には、コイルが血管側にはみ出さないように、バルーンやステントを併用することがあります。ステントは、血管の内側に置く網目状の筒です。また、近年では「フローダイバーター」という特殊なステントを用いて、血液の流れを変えて動脈瘤の中に血液が入りにくくする治療も行われています。特に、形や大きさのために通常のコイル治療が難しい動脈瘤で選択肢になることがあります。当院では全てのタイプのデバイスが使用可能です。


バルーンアシスト


ステントアシスト


フローダイバーター

「頭を開けない」と聞くと、とても軽く簡単な治療のように感じるかもしれません。確かに体への負担が少ないことは大きな利点です。一方で、脳の血管は細く、複雑であり、それぞれが非常に重要な脳の機能を担っています。治療中に血栓ができたり、血管や動脈瘤を傷つけたりするリスクもあるほか、血管内に金属を入れるため、多くの場合血液をサラサラにする薬が必要になります。

また、脳動脈瘤の治療は一度終われればそれで全て終了、とは限りません。治療後に動脈瘤の中へ再び血液が入り込んでいないか、ステントが問題なく働いているかなどを、画像検査で確認していきます。治療後の経過観察も、治療の大切な一部です。

つまり、脳血管内治療は「楽な治療」ではなく、「体への負担を抑えながら、血管の中から慎重に行う治療」です。開頭クリッピング術の方が向いている動脈瘤もありますし、そもそも治療せず経過を見る方がよい場合もあります。

大切なのは、治療法の名前だけで決めないことです。動脈瘤の形、場所、大きさ、年齢、全身状態、そして患者さんの考え方を含めて、最も納得できる方法を選ぶ必要があります。脳動脈瘤の治療は、病気だけを見るのではなく、これからの生活を見据えて決めていく治療です。脳動脈瘤があると言われたら、お一人で悩むのではなく、ぜひ一度ご相談ください。漠然とした不安を解消するお手伝いをさせていただきます。



医療エッセイのバックナンバーはこちらから→ご覧いただけます。
https://medical.kameda.com/general/about/magazine/index.html

亀田INFO
LINE公式アカウント「亀田INFO」
＼亀田クリニック・亀田総合病院からの情報をお届けします／
QRコードを読み取って友だち追加を選んでください